

チェアマンに就任し、あいさつする笠井政志社長＝多治見市東町、セラミックパークMINO



美濃焼産地 世界発信へ

セラミックバレー協議会発足

多治見市で式典 メーカーや商社が協力

美濃の焼き物の価値を捉え直して美濃焼産地のブランド化を目指す「セラミックバレー協議会」の発足式が8日、多治見市東町のセラミックパークMINOで開かれた。協議会のチェアマンに就任したタイル製造販売エクシズ㈱同市旭ヶ丘Ⅱの笠井政志社長(63)は「多治見、土岐、瑞浪、可児で暮らす皆さんを巻き込んで、この土地の魅力を世界に発信していきたい」と決意を語った。(織部俊太郎)

で美濃焼産地をアピールする「セラミックバレー構想」の趣旨を確認したほか、規約案や役員案などを承認した。今後、趣旨に賛同する会員の参加を呼び掛ける。会を運営する財源は補助金や協賛金を充て、当面は事務所を多治見市経済部に置く。

設立発起人で東濃信用金庫の市原好二理事長(66)は

「2019年から美濃焼産地の課題を話し合ってきた。『世界は美濃に憧れる』をスローガンに、魂を込めた熱い活動が末永く続いていくことを願う」と話した。笠井チェアマンは「協議会の発足は夢のような出来事。この土地を愛する人たちが同じ方向に力を合わせることであれば美濃焼の未来は開ける」と語った。